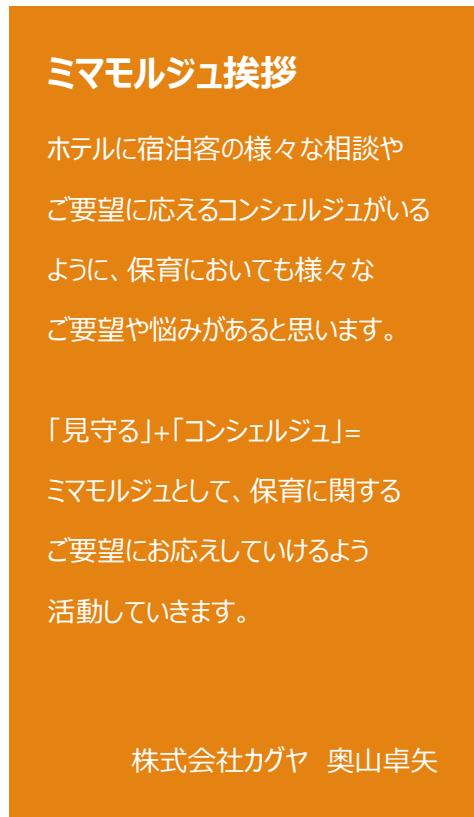


2019年度GTセミナー 職域別見守る保育セミナー②

2019.10.7～10.8

第139号 2019年10月28日発行



職域別見守る保育セミナー

2019年10月7日～8日に職域別見守る保育セミナーが東京都中央区のコンгрессスクエア日本橋にて開催しました。

全国から80名程の先生方が集まり藤森代表の講演や新宿区高田馬場にイタリアンレストランのお店を構えるカーポラヴォーロの鳥海シェフをお招きし「オーガニックや食材」をテーマにご講演して頂きました。

また、職域別見守るセミナーの醍醐味でもある職種ごとのグループディスカッション等、2日間に渡り研修を行いました。

1日目 2019年10月7日(月)

- 10:00～ 園見学
- 13:45～ 講演① ギビングツリー 藤森代表
- 15:15～ 休憩
- 15:30～ 講演② カーポラヴォーロ シェフ鳥海様
- 17:15～ 意見交換会

2日目 2019年10月8日(火)

- 9:00～ グループディスカッション
- 12:00～ 昼食
- 13:00～ グループ発表
- 14:30～ まとめ

職域別見守る保育セミナー2日目 座談会—前編

セミナー2日目は新宿せいが子ども園の先生方による座談会が行われました。

園長の藤森先生、保育士の森口先生、看護師の久富先生、栄養士の柿崎先生にご登壇頂き、
新宿せいが子ども園での保育事例をお話をして頂きました。

倉掛：皆さんからいただいている質問を紹介します。前には、新宿せいがの先生たちに前に出て来て頂きました。

具体的な例をお聞きしながらになるかもしれません。今日のグループディスカッションと出てきた話と重なるかもしれません、順番に藤森お話を聞いていけたらと思います。まず「食」のことについて。好き嫌いについて質問があります。頑なに野菜を食べない子どもで、毎日ご飯と汁だけになってしまふ子がいます。好きなものを食べさせても変化がない対応はどうすればいいでしょうか？

藤森：私は専門ではありませんが、基本的には保育の一つの考え方を持っているという話と、現場のうちの園でどうしているかを話せますので、急きょ職員に出てもらいました。まずは私の考え方をお話しします。最終的には個々ですので、うちのベテラン職員男性職員ですが、私からすると保育が積み重なり素晴らしい。養成校へ教えに行ったりしています。今来てもらった彼（森口先生）も養成校で授業を持っています。積み重ねると外で発信が出来る。私の園の有難いと思うのがベテランの男性が、最初はせいがの森で勤めていた。最初に担任したのが3歳児で今20歳になった。親を含めて3歳のクラス会をやりたいとやった。3歳児のクラスの担任のクラス会をやりたいという話は聞いたことがない。大体小学校6年とか、中学3とか節目でクラス会が多いが、人というのは、幼児体験は大事なのに忘れていると言われている。20歳になっても、3歳のクラス会をやりたいと言って集まつたらしい。それから私の園でも卒園児が集まって、その後どうなったかを皆で話し合ってくれた。大学生になって、どう活かされているかを皆で話し合いをしてくれました。忘れると言われているこの時期を、大事にしてくれています。そういう意味で有難い。保護者からすると、自分たちが育てられたと言ってくれます。実際の現場の良さは、後まで感謝してくれる仕事は有難い仕事だと思っています。うちの園はどうしているかをお話ししますが、好き嫌いというか、食べる量のジレンマ。理論的な研究で見ると一つが、赤ちゃんが母乳を飲む時に、母乳は飲み始めは赤ちゃんが訴えます。飲み終わりはいつ終わるか、飲み終わりは自分で離します。自分でもうやめるアピールをする。では、どれくらい飲んでいるかを調べたところ、個人差があった。ちょっとしか飲まない赤ちゃんと、一杯飲んだ子。でも共通だったのは、増える体重はどの赤ちゃんも一定だったそうです。赤ちゃんにとっては、自分の体重を増やそうとする飲む量は個人差がある。睡眠でも、個人差が必要な量がある。食事やお昼寝が保育園は良くないという非難の的とは何かというと、個人差を保障しないで、みんな同じ量を食べさせようとするか、同じ時間寝させようとすると言われている。私の園では、個人差を一番知っているのは本人が必要な量を知っている。それを哺乳瓶で与えると目に見えるものだから、ちょっとだと心配になる。もっと欲しいというのに、目に見えるから肥満が心配でやめると、自分でどれくらい飲めばいいか知っているのに、その能力を捨て去って、与えられて飲む能力を残してしまします。それが今は摂食障害を起こしていると言われている。端から見た量で、飲め飲めとか、もうやめろと言われているからと言われている。そういう意味で、私たちは保育園で何を義務付けられているかというと、見た感じの量ではなく、体重が増えているかどうか

か。それが異常だったら注意しないといけない。一杯食べても気を付けないといけない。肥満度も出るので、その指数が悪ければ調整しないといけない。見た目の量で判断するべきではない。ただし、小さいうちからやっていかないと、自分で量が分からぬ。途中からの場合は、声を掛けることもあるかもしれないし、食べる工夫をしないといけない。ですから、睡眠も0歳児から自由です。食べると同じで自由です。ただし、赤ちゃんは自分で選択できないので、2歳児クラスまでは一度寝かせます。自然に目覚めたら起きます。その子が足りると、自然に目覚めたら、そのまま起している。体を休めるということもあるので、本を読んだり、静かに過ごしているが、無理やり寝かしつけることはない。3歳以上は自分で選べるようにする。ただし、先生はその子がどれくらい寝ることが小さいうちから必要かを記録している。ショートスリーパーなのか、ロングスリーパーは記録して、自分の口で言えるようにする。親が要求しようが、しまいが園ではこれくらい寝ていました。

「これくらいしか寝ませんでした」ということをちゃんと言えばいい話です。食べる時も、残菜値をチェックして、食べ終わったら○杯目とチェックし、先生はそれを知っておいて、3歳以上になったら自分で言えるようにする。自由と言って、勝手にさせているわけではない。その子が必要なことを把握しておいて、自分で言えるようにする。世の中に出たら、人が量を言ってくるわけではない。それからもう一つ、食べる量と好き嫌いはジレンマと言ったが、まったく逆効果。好き嫌いをなくすために自由にしている。それは私の園で調査をして、バイキングとか、子どもが自由に食べることで量が変わってくるかを家庭を含めて計った。子どもが量を言うと、1回1回、計ってもらって調査をした結果、全体量が増えていった。その発表で前の園では、都知事賞を頂きました。子どものために好きにさせている訳ではなくて、好きにさせる方が結果食べるようになった。現場も分かると思うが、残菜は一つもなくなります。年長になると残菜のカゴには、麦茶が少し入ってるくらいでなくなる。長い目の研究でそうなったようなことがあるので、好き嫌いも味覚を変えたいなど。のために美味しそうに食べる人が必要なのと、信頼している先生も美味しそうに食べる。先生が食べる意味がそれになり、モデルとして示します。ですから、「これ食べないの?」と言って、「あっそう」と言って、おいしそうに食べる姿を見せて、子どもが欲しそうにしたら食べてみるとする。というようなことで、私の園では、そういうことをして、工夫を保育士さんはしていると思います。それから咀嚼の問題も確かにある。1年生を担任していた時があって、ほとんど給食を食べない。ずっと噛んでいたとあったが、食パンの白い所だけをずっと、くちゅくちゅして、溶かして食べるだけ。それしか食べない子がいて、家庭訪問をしたらお母さんが「うちの子に歯を使わせるのはかわいそうで、全てミキサーにかけて食べさせています。この前は、そうめんをミキサーにかけて、飲ませました」といった時に、それは子どものためか。歯を使わせて、かわいそうか?と思いますよね。皆さんは呆れると思うが、実際は園でそういうことをしている部分がある。例えば、人間には大きく歯が3種類ありますね、門歯と臼歯と犬歯がありますね。この比率が分かりますか。だいたい2:4:1。それぞれの役割は、門歯は野菜をかみちぎり、犬歯は肉を引きちぎる。臼歯をすりつぶす。歯の割合は、人間が摂取すべき割合に合わせて、その部分の歯があると言われている。野菜と肉と穀物の比率です。野菜が2で、肉が1で、穀物が4の割合の食べるものが基本。それぞれの歯を使わせることに意味があるので、小さく切って下さいと要求するが、小さくすると門歯、臼歯を使わせない。大きくして、かじり取ることも必要。噛みちぎることも必要ですね。小さくすることは必ずしも子どものためではない。手づかみ食べは色々な理由があって、一つは口の大きさを把握していると言われている。多くつまんでだめだとか、飲み込めない量を判断するのは、手づかみの頃から大事と言われている。もともと、そうできているので、汚いと思ってさせないと、その弊害がどこかで出る。私の娘が、男の子とふざけて、子どもの頃頭を打って脳外科行った時に。髪飾りが割れた。その医者に、「畠の

上で転んだって死ぬことはあります、2階から階段から落ちて死なないこともあります。どっちが危ないかは、言えません」と言われた。ただ一番は見ていたかどうか。早期発見と処理が必要。その時に私が提案したのは、昨日の話に続くが、去年埼玉でプールで水死があった。その時に、保育士が見ていたかどうかがあって、物を取りに行って、見に行っていなかった。通達が来て、必ず監視員を置くことと来た。幼稚園では、そうすると、ほとんど入れません。監視員ということは、遊ぶ先生と監視員と二人ないといけないので、一人担任だと不可能。通達が来た時に、私たちの職員が感じたのは、先生が見ていたかどうかではなくて、他の子はどうしていたのだろうと思う。水の中に沈んだ子を見たときに、「おかしいよ」とか、助けるか分からぬが、そういう子がないで、遊んでいたのかと思う。先生が横を見ていたら、見ないこともあるが、子ども集団がある中で言わなかつたのだろうか。のどを詰まらせていたら、他の子は言わないのだろうか。先生が見ていたかどうかでは、限界がある。他の子が気づいて、言える子にしないといけないが最近の子は心配。ゴミが落ちていると、拾いなさいというと、「僕は捨ててない。」片づけなさいと言うと、「俺は使っていない」と言うが、ある意味、保育士さんにも責任があると思います。片づけさせるときに、「自分で使ったのだから、片しなさい」ではなく、「きれいになるから、片付けようね」と言わないといけない。だけど、こういう子ども同士の繋がりを0から作っていかないといけない。お昼寝チェックも5分ごとにチェックしようというのもおかしい。ある園で、この子をチェックして大丈夫だと、順にチェックして、この子に来たらチェックして、その後に戻ったら窒息しそうだった。5分ごとだったから気づかなかった。どういうことが通達が来たかというと、3分ごととなつたが、それよりも全体を見て、変な子を見つけたら絶対見つかる。一人ずつ5分ごと見るよりも、全体を見て、どこかで戻した、どこが変だという方が見つけられると思う。私たちが現場としての見方を言わないといけないから、監査が言ったからというが監査が絶対ではない。しかも、うつぶせ寝をひっくり返しなさいといわれるが、アメリカの国立乳児研究所があり、いい保育士と悪い保育士が書いてあって、いい保育士はうつぶせ寝をさせると書いてある。何故かというと、うつぶせ寝はハイハイの移行の時期、うつぶせをしないとハイハイに行かないから、うつぶせ寝をさせると書いてある。そのデータで厚労省が突然死のガイドラインQ&Aがあって、「寝返った時は、戻った方がいいですか?」という質問に対して「アメリカの国立研究所では、そのままうつぶせ寝をさせておいた方がいい」と書いてあるので、ひっくり返す必要はないと書いてあるそれを監査と言つたら、国や世界が認めているのに、東京都は認めないと言っていた。看護という根拠があり、必ずしも監査が正しいとは限らない。そういう中で言つていいかないとだめということがあって、見た目だけとかでは判断しない方がいい。好き嫌いも量だって、子どもによって違う。私の園で例えば、親が子どもに虐待か何かひどいことしたことがあった時に、家にどう指導するか。親にどう指導するかという時に、あることを言ってきた職員にピーマンかトマトが食べれない時に、「あなたは食べれる?」と聞いたら「食べれない」といった。人は好き嫌いがあるのと同じように、「子どもが嫌いな親がいるんじゃない」といった。そうしたら、「好きでなかつたら産まなければよかったです」と言つたが、産めば変わるだろと多くの人は思う。その人は変わらなかつた。「でも、自分の子どもじゃないですか」と職員が言ったので、「じゃあ、ピーマンを育てたら食べれる?」「食べれません」と言うように、嫌いなものは嫌いかもしれない。その時に親を変えるかと言つたら難しい。その時にもう一つ研究がある。ひどい親の時には、良い先生の影響からの方が大きいと研究がある。その子は園が関わつた方がいい。ひどい親の子どもの子は、ひどい子が多く、先生が嫌がつてしまつが、そういう子ほど受け入れてあげないとかわいそう。でも、親のせいにしちがちだが、私たちが大事という研究があるのが一つ。もう一つ親との連携の研究の中で、家の中と園の姿で、7割くらい変えている子がほとんど、好き嫌いにしても変えているそうです。家の好き嫌

いと、園では変えているそう。もし、それが同じ場合、何かしら病的な理由があると書いてある。これは一つにアレルギーの問題があるが、もう一つは触覚異常という子が見つかってきている。例えば、トマトのヌルヌルが気持ち悪く感じる子がいるらしい。それからイチゴの粒々が剣山が刺さったように感じる子がいるらしい。先生には認めてもらはず、わがままとしか受け取られないが、外に反応が出ればわかるが、そう感じる子が理解してもらえないことがあるので、この間、特集をやっていたが、大体アレルギーがあると親は、学校に言うそうです。そういうように、触覚でもあり得るかもしれない。それを親の価値観で、好き嫌いは良くないというだけでは解決できない。最近ショックなのがスポーツ選手で、浅田真央さんや体操の内村選手等は、野菜を食べない。アスリートでも野菜を食べなくても活躍をしている。栄養バランス表が揺らいでしまう。甘いものに関して不思議で、ドイツの献立表の中に、肉料理等がある中で、週に1回甘いものを出すという日がある。甘いものは脳にいいということで、甘いものが出る。一概に私たちの価値観だけでは言えない。この間、倉掛さんと麹町中学の工藤校長先生が色々改革している時に、ピアスや髪を染めるのをどうするか。全く自由にしたらしい。そうすると他の子も意識しないので、ほとんどしなくなった。特に目立つから、反抗するということがあって、私が給食指導、私は食育の本に書いたことがあって、一つ有名なことがあって、残菜が多いクラスの残菜を一番少ないクラスにした。調べたらいくつか理由があった。ある日、残菜を0にしようと思って準備した。残ったものを全部私が食べた。そうしたら残菜が0になったが、焼きそばだったら食べれるだろうと思って、頑張って食べた。だからと言って、全部は食べれないので、それを美味しそうに食べていたら、「先生すごい！」と言って仕方ない。少しあげたら、私を困らせたいから「僕も欲しい」といってくる。その後調子づいて、「ほかのクラスからも、もらってきていい?」と言って、6年生からもらった。次の日はくれなかった。学校の残菜を少なくした理由には教員になるつもりはなく、産休代替で入った。私の前の先生は100パーセント妊婦さんで、つわりが酷くて、毎日いやいや食べていた。だったら、自分が美味しそうに食べる方法しかない。それが一つ。サクランボがあって除いて食べていた。嫌いなのかなと思っていたら、デザートは、最後まで食べた子しかダメと言っていた。そこまでたどり着かない。美味しそうに食べるのかと同時に、何から食べてもいいと言う。デザートは学問的に先に食べた方がいい。最後のデザートは、お菓子的なものは最後、でもフルーツ野菜は最初の方がいい。うちで朝必ずフルーツが出るが、食欲がない時は、梨を先に食べて、さっぱり食べて、最後に食べる。どっちでもいいだろうと思うが、小学校の先生がデザートは最後ということがあるが、難しいがそんなにこだわらなくても思うことと、個人差がある。保育園の役目は温かいものを食べさせたい。ジレンマがあるというが、温かいものを食べさせたいなら、家で食べさせてください。園は皆がいること、家ではその状況を作れない。皆で吃るのは、子ども同士で見栄を張るとか、みんなで食べると楽しいし、競争することもある。これが園の役割。ですから、理想は冷めても美味しいものをメニューするべき。先ほど、お弁当を食べたが、ご飯が冷たくても美味しい。冷めても美味しいメニューにしないといけない。これが日本の文化で駄弁がある。冷めても美味しいものにすること、もう一つは車内に匂いが漂わないようにすること。座席で食べるというメリットのために、園では当然冷めるかもしれないけど、冷めても美味しいとか、みんなで食べて美味しいとか、楽しいとか、子ども集団を使うことが園で出来ること。家では子どもに合わせた工夫をするとか、温かいものを食べさせる。家で同じことをするわけでもないし、トータルでその子の1日がある。うちのメニューを見たと思うが、今日のメニューは豆類が無いので、家では取って下さい。トータルで一人の食事が出来ていることを示している。家でやることと、園でやることは別々。メニューのヒントで都知事賞をとった。私は3園渡り歩いてきたが、1つ目がメニューの書き方。2つ目がバイキングをすることで食べる種類も、残食が減ったこと。新宿では

食育三本柱と言われている。食育では、この3つが何で3本柱かを3つから待つ力をつけていることを発表した。動物は獲物を取ったらすぐ食べるが、人は半年先を見込んで育っているのを待って収穫する。トマトを早く取ったら、青くておいしくない。栽培も待つ力をつけています。調理も待つ。すぐ食べないで、3分待ちましょうとか、炊きあがるまで待つとか、焦ってあげると美味しくなくなる。3つ目は共食。揃って、食べるのは楽しいから待ちましょう。この3つは待つ力をつけています。マシュマロ実験で待てる子は、全ての年齢で優れていた。ただし、マシュマロ実験で待ったらいいことがないといけない。待った結果なので、前しか待たせません。食べ終わったら、次の所へ行っていい。食べる前は待たせるわけです。2つ目の条件は、どれくらい待てばいいかが見えないといけない。マシュマロ実験は15分。給食ではあと何人位というのが見えるから待てる。最初は、先生は「あと3人来たら頂きます」をしましょうと待つ目安をつけること。子どもと一緒に実が赤くなってきたと、過程を待つことをする。親にも待つことをするには、調理も一緒にすること。お米を研ぐのも、透明の蓋についているものにすると中を待てる。育つ過程を見せること。最後は食べれる報酬がある。韓国では法律で決まっています。マンションの一室の園でも借りてやっている。何のためにするかを考えにくことだと思います。大きく前提の色々な研究を知ってもらうために話をしています。職員がそれぞれの場で、工夫しています。全体の考え方をお話ししました。(次号に続く)

本稿は、2019年10月8日に行われた職域別見守る保育セミナーの座談会の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、

QRコードからお願いします。/